

[概要]

本研究は、戦後における富山市八尾のおわら節歌詞募集事業を対象とし、担い手組織による言説を手がかりに、地域イメージがいかなる価値観のもとで構成・創造されてきたのかを明らかにすることを目的とする。分析対象として、1946年から1971年までの歌詞募集事業における当選作（歌詞）を用い、計量テキスト分析と定性的読解を組み合わせた方法を採用した。分析にはKH Coderを用い、頻出語分析や特徴語分析などを通じて、歌詞表現における語の傾向と構造を把握した。その結果、おわら節をめぐる語りには、踊りや音楽といった芸能的要素に加え、自然景観や生活文化を想起させる語が重層的に用いられていることが確認された。また、当選作において繰り返し強調される語の配置からは、地域らしさを一定の方向へと導こうとする評価基準の存在が示唆された。本研究は、歌詞そのものではなく、それを評価する言説に着目することで、戦後の地域文化が言葉を通じてどのように創造されてきたのかを明らかにし、地域イメージ研究に対する新たな視点を提示するものである。

キーワード：地域イメージ，民謡，計量テキスト分析